

株式会社 小野測器 計測商品事業部 小松正男

あらまし : ここ数年、新しいタイプのFFTアナライザが多く見られる様になってきた。FFTアナライザは高精度アナログ回路、高速に演算処理をする能力及びデータ表示機能が必要とされる。パソコンにアナログフロントエンドを組み合わせ、もしくはパソコン本体のISAもしくはPCIのバス、PCMCIAコネクタにアナログ部、場合により演算用DSPを載せた基板を実装し、パソコンの演算能力を活かしFFT解析を実現するタイプのものである。

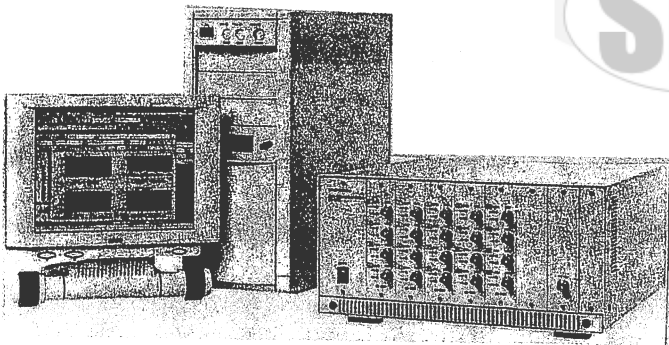
従来から高価なワークステーションとデータ収集フロントエンドの多チャンネル計測システムがあったが、パソコンの低価格化、処理能力の向上、ウインドウズの普及で従来よりこうした組み合わせが低価格に実現できる様になり、機能の追加も図られ、身近になるとともに使い易くなってきている。こうしたタイプのFFTアナライザの

メリットはパソコンが得意とするファイル管理や、既存の使い慣れたソフトを利用した二次処理、ネットワークに接続して、ウインドウズ上で簡便にデータの授受が可能になると言った処にある。

この様な製品の代表的なものの一つ、小野測器のマルチチャンネル データステーション (DS9100 シリーズ) を紹介する。

この装置は、アナログフロントエンドが独立筐体になっていて、パソコンと組み合わせて使用するタイプのアナライザある。

パソコンとは光ファイバケーブルで接続されているため、電氣的に絶縁され、最大で100mまで延長することができる。又ノートタイプパソコンとの組み合わせも可能で今後発売でされる小型のユニットと組み合わせれば持ち運びも可能となる。



DS-9100シリーズ ブロック図

